

<議事録>

令和4年度第2回  
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 令和4年10月20日（木曜日）  
午後3時00分～午後4時30分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

## 令和4年度 第2回我孫子市いじめ防止対策委員会 <議事録>

### 1 開会 [目出]

これより令和4年度第2回我孫子市いじめ防止対策委員会を始めます。

### 2 会議の公開について [目出]

### 3 いじめ防止対策に関する報告及び協議 [目出]

<丸委員長>：第1回委員会の時に、修学旅行・林間学校・小学校の運動会等、無事に行われましたという報告をさせていただきました。その後一学期終盤の7月上旬から我孫子市の子どもたちも新型コロナウイルス感染者が、2、3月よりも増えました。一番多かったのが1学期終業式で、200名を超える子どもたちがコロナウイルスに感染しました。今まで第6波の時に160～70名くらいが多かったのですが、一気に増えました。21日から夏季休業に入りましたが、7月中は相当の感染者が出たと思います。

2学期に入り9月始め、始業式には欠席者が70～80名になり、先週は10名を下回る数でしたが、ここ2、3日では10名を超える学年等があり、まだまだ予断を許さない状況であり、感染対策は、継続してやっていくしかないと思います。医師会長の話では、小中学生はまだ出ていないが、インフルエンザが出始めているということで、何とかこの冬を乗り越えたいと思います。特に、換気に十分気を付けていきたいです。

本日の委員会ですが、資料にありますように第1回いじめアンケートの結果報告が主となると思います。その中で、全体的には大きな変化は見られませんが、SNSを介してのいじめは少し増えているので、学校で十分指導をお願いしたいと思っています。資料3のQU検査についてですが、「孤立感」を持つ子が増加しています。今年から全小中学校でWEBQU検査に切り換えて実施しています。何が影響しているのかわかりませんが、11月に第2回目の検査があり、「孤立感」の動きは見えていかななくてはならないと思います。では報告後の意見・質問等よろしく願いいたします。

#### (1) いじめについてのアンケートによる認知の推移 [目出]

資料1 「令和4年度 第1回いじめについてのアンケート集計結果」の1ページをご覧ください。

まず、6月に実施されました第1回いじめについてのアンケートの集計結果についてご報告いたします。「いじめアンケートによる認知の推移（実施時期別）」をご覧ください。問1「あなたは今いじめられていますか」で「はい」と回答した数です。この結果をいじめの認知件数と捉えます。小学校417件、中学校24件で、割合にすると小学校で約7.4%、中学校で約0.9%でした。

今回の結果は、昨年度より「いじめの訴え」が減少しましたが、引き続き各校で教職員が一体となって、様々な場面において児童生徒のサインを見逃さないように連

携していく必要があります。また、いじめの未然防止のための学校・学年・学級づくりや、調査後のいじめ解消に向けて、担任が児童生徒のサインを見逃さないように日々の様子をしっかりと観察したり、心の教室相談員やスクールカウンセラーと連携して、児童生徒の心のケアをしたりするなど、具体的な取り組みが重要です。

## (2)第1回いじめについてのアンケートの集計結果及びその他の記述について[目出]

はじめの項目先生に相談したいことはありますかに関して、小学校では458人(8.0%)、中学校では81人(2.9%)が「ある」と回答しました。

問2のいじめの期間については、小学校では1～3日が121件、1カ月以上が106件となっています。短期間で解決するものと長期間に渡っているものとに分かれる傾向にあり、中学校では1カ月以上が15件と1番多く、傾向は例年どおりです。

ここからは、10ページの「その他の記述」と併せてご覧ください。

問3のいじめの内容については、小学校では、「かげ口」や「暴言」、中学校では「いやなことを言われる」「避けられる」等があり、他にも小学校で「ゲームの世界を荒らされる」や、中学校で「SNSで悪口」などが上がっています。

問4の場所については、小中どちらも、教室、校庭や学校内の場所が多いですが、小学校では、「学童」「習い事先」の回答があります。また、オンラインゲーム内やYouTube内のコメントの中という回答もあります。

問5 誰にいじめられたかについては、「クラスの友だち」「学年の友だち」が例年通り多く上がっています。

問6 相談相手については、小学校では「親」、「だれにも相談していない」と回答した人数が多くなっています。中学校では、「友だち」、「親」、「先生」が同程度の人数ですが「誰にも相談していない。」という生徒も5人います。引き続き、困っている時や、悩みがあるときの「相談窓口」の周知を図ってまいります。

問7のあなたは今、誰かをいじめていますかの質問に、小学校63人で約1.1%(R2年0.6%、R3年1.5%)、中学校4人で約0.1%(R2年0.03%、R3年0.2%)が「はい」と答えています。

問8 それはどんないじめですかについては、「嫌なことを言う」がこれまでと同様に最も多くなっています。これからも引き続き、人の嫌がることはしない、相手の気持ちを理解することなどを、学級、学年で指導していきます。

問9 誰をいじているのですかについては、小学校では「クラスの友だち」が最も多くなっています。

問10 いじめた理由はなんですかについては、大きな変化はみられませんでした。「相手が嫌がらせをしてきたから」や「いじめられた仕返しをした」「相手が自分勝手だから」など相手がいじめの理由になっている回答が多いです。

問11 今いじめられている子がいますかについて、いじめられている子を認識している人数は、小学校461人で約6.0%(R2年3.4%、R3年7.9%)、中学校48人で約1.7%(R2年0.4%、R3年1.5%)です。また、問12 あなたはどのようにしていますかについては、「親や先生に話している」、「やめるように言っている」の回答が多い一方で「だまって見ている」という回答もあります。自分のことだけでなく、友達の

悩みや思いに共感し、気軽に相談できる環境づくりを進めていきます。

これらの分析および考察については、後ほど報告させていただきます。

<丸委員長>：ここまでの報告・説明で、何かご意見等ございますか。ないようですので、次の報告をお願いします。

### (3) 第1回いじめについてのアンケート調査後の追跡調査による解消状況と未解消情報 (資料2) [佐藤]

次に追跡調査結果についてです。今回のアンケートでいじめられていると回答した小学生は417人いましたが、9月の調査の時点で、未解消が2件でした。中学生はいじめられていると回答した生徒が24人でしたが、未解消は3件でした。

「ここで、未解消報告のケースの状況について、佐藤より報告」

### (4) 次にアンケート結果を基にした考察について [目出]

・今回の結果は、昨年度より「いじめの訴え」が減少しましたが、引き続き各校で教職員が一体となって、様々な場面において児童生徒のサインを見逃さないように連携していく必要があります。また、いじめの未然防止のための学校・学年・学級づくりや、調査後のいじめ解消に向けた具体的な取り組みが重要です。

・小中どちらも、「相談したいことが『ある』」と回答した人数が、いじめの認知件数よりも多くなっています。「いじめ」に至らない内容でも悩みがある児童生徒がいること、また、特に中学校では、「いじめられている」と回答することで聞き取りや指導がある等の理由から「はい」と答えない生徒がいると推測されます。普段から気軽に相談できる環境づくりや支援体制を学校とともに進めていきます。

→改善に向けての取り組みとして、教育委員会としては、学校訪問時に気になる生徒について、生徒の活動の様子、学級掲示物や環境、長期欠席児童生徒への連絡方法など、WEBQUの調査結果等を元に指導助言したり、長欠・不登校の未然防止や学級経営について指導助言したりしていきます。

・いじめられている期間について、「1か月以上」の回答が多い点は注視していきたいと思えます。このような児童生徒は長期に渡っていじめをうけている可能性があるため、長期化傾向にある件においては継続的な指導・観察が非常に重要です。さらに学校ではいじめ解消後も定期的・継続的に観察・教育相談を行っていきます。

・SNSやオンラインゲーム内でのトラブルの訴えがあります。また、スマートフォンの所持率も数年前から上昇しています。感染症予防のため、放課後や休日の友だちとの交流や外遊びの減少により、SNSやオンラインゲームによる関わり合いが増えたことが要因と考えられます。情報モラル教育も含め、家庭との連携、児童生徒自身へのネットいじめに対する指導は、繰り返し継続的に取り組む必要があります。

なお、教育委員会から、各校に児童生徒・保護者向けの啓発資料の配付や、情報モラ

ル教育の推進のための情報提供を行っています。また我孫子市小中一貫教育では、今年度はAbi—ICTカリキュラムについて、共有授業実践を行っています。情報モラルの共通学習を用い、子どもの9年間を見通して情報活用能力を高めるよう、小中で相互参観をするなどして、取り組んでいます。

・自分以外にいじめられている友だちがいると回答している児童生徒が多くいます。今後も、いじめられている友だちを心配する相談がでてくるような学年・学級づくりを進めていけるよう、学校へ指導助言をしていきます。

改善に向けた取り組みとして、各学級で、学習活動の中で自分の意見を述べたり、友だちの意見に共感したりする体験を通して、相互理解を深めていくことで、思いやりの心を育てていきます。

・相談相手が、親や教職員、友だちが中心となっていますが、「誰にも相談していない」という回答も多くみられます。学校生活において、日頃から相談しやすい環境づくりに努めることが大切です。教育委員会と学校が連携して、心の教室相談員やスクールカウンセラーの相談窓口、悩み相談ホットライン（教育相談センター）、各関係機関の相談窓口の周知も含め、困ったときに一人で悩みを抱え込むことのないように指導するとともに、SOSの出し方教育を推進していきます。

なお、SOSの出し方教育については県教育委員会から通知された「SOSの出し方教育PPT資料」を全校に配付しております。

・いじめを受けている場所は、教室、廊下、校庭、部活動の場所など、学校内が多くなっています。教職員は、児童生徒の日頃の何気ない言動や、休み時間の様子等も見逃さないようにする必要があります。

そのためには複数の教職員で見守ったり、生徒指導情報の共有を密にしたりすることで、いじめ防止や早期発見につながります。

・「その他」の記述について把握し、丁寧に対応していく必要があります。家族の記述があった時に、家庭環境の把握に留意し、慎重に聞き取りをしたり、生命の危険にさらされるようなことがあれば、すぐに関係機関の子ども相談課、児童相談所等につないだりする必要があります。

・教育相談などは、児童生徒が担任と直接話のできる貴重な時間です。アンケートの数値だけにとらわれることなく、児童生徒と向き合う大切な時間として取り組むよう、学年主任や生徒指導主任を中心に、校内で常に共通理解を図っていくことが大切です。

・重大事案につながりそうな案件は、子どもや親からの相談や連携機関からの情報、教職員の気付きなどから察知できます。改めて、アンケートだけに頼るのではなく、普段の学年、学級経営において未然に防ぐための取り組みが重要です。

・引き続き感染症予防をふまえながら、学校生活全体を通して児童生徒が自己肯定感を高め自己実現を味わえる行事等の在り方を、学校と教育委員会で検討していきます。

## (5) インターネットや携帯電話についての調査結果 [目出]

「次に、インターネットや携帯電話についての調査結果についてご報告します。

昨年度の調査と比べて、スマホ所持率は小学校が、同じで54%、中学校では1%増加し、86%の生徒が「自分のスマートフォンや携帯電話」を持っています。また、一日の使用時間は、「4時間以上」の割合が小学生で19%、中学生で23%と、昨年度より、それぞれ1%増となっており、SNS、インターネットが、より子どもたちの生活の中に入り込んできています。今後もネットいじめ、ネット依存症等に対する危機意識を高め、児童生徒の様子を学校と連携して把握し、指導していきます。

#### (6) WEBQU 検査 要支援等の人数比較 [佐藤]

「次に、今年度からとなりました WEBQU 検査結果から、要支援等の人数比較につきまして、佐藤よりご説明いたします。」

先ほど丸委員長の話にありましたように、今年度は小中全校で、WEBQU 検査を行いました。昨年は小学校1校、中学校1校だけ WEB で実施しました。

検査の基本は「学級経営に生かす」という検査で、学校生活の満足度調査になります。以前実施していた会社と違うので、昨年 WEBQU 検査を実施した2校の区分方法と同様にデータ処理をしました。

\*そこでまず目を引いたのが、「孤立感」を持つ子が多いということです。これについては、これが要因だというものはありませんが、コロナ感染症の影響が考えられます。

表を見てください。令和4年の孤立感の合計人数は小学校315名 中学校250名、令和3年は、小 135名 中 62名です。令和元年から2年、2年から3年は多少の変化はありますが、今回ほどではありません。

◆要因として、マスク着用や大きな声を出さないなど生活様式の変化があり、長く継続しています。会話が少なくなり、給食時は前を向いて、会話なしで黙食。放課後の遊びや休日の遊びも減少しました。また相手の表情が分かりにくくなり、クラスメイトとの距離感が遠くなり、子どもたちにとっては少しずつ「一人である」という思いが強くなってきたと予想されます。そのことが「孤立感を持つ子」が増加した一因ではないかと考えています。

\*数字的には、小学校の検査項目に「休み時間は一人であることがあるか」があり、4段階になっています。2は（あまりそう思わない）、3は（少しそう思う）ですので学校生活で「一人であることがある」では、3の（少しそう思う）に回答したことが考えられます。

○現在、学校訪問をしています。第1回目検査の3か月後の様子と現状を把握して、学校と情報共有しています。

また、「気になる児童生徒の一覧表」で、要支援の子や侵害感のある子はもちろん、「孤立感を持つ子」の日常生活の見守りをお願いしています。

○今後は第2回の検査との比較をしていく必要があると思います。

#### 4 意見交換 [丸委員長]

それでは、只今、事務局より報告のありました件につきまして、ご意見等をいただきたいと思ひます。

【佐藤委員】：QU 検査の件ですが、令和3年までは紙で、令和4年からパソコン機器での実施だが、質問項目は変わらないのか？（変わらない）

データ比較をしてもいいと思うが、孤立感を持つ子が増えているが、要支援の子が減っている。学校として、早急に、積極的に対応しなくてはいけない子が減ったという感じは現場としてありますか？

【佐藤担当】：子どもたちの生活が変わってきて、直接的な交流が少なくなりました。そのことで、対人関係に弱さを持つ子など要支援の区分に入る子が少なくなっていて、掛かる負担は多少軽くなっていると思ひます。

【佐藤委員】：孤立感を持つ子が、不登校とか居場所をうまく見つけられないなどの深刻な状況にならないような対応が大切だと思ひます。

【熱田委員】：孤立感の考え方ですが、教育長が話されたコロナ感染者の増加とリンクしているのではないかと考えています。感染してしまった子や濃厚接触者が疎外感を感じ、そんな中で質問に答えると孤立感の数が増えていることになり、孤立感に繋がる要因を考えることが必要ではないでしょうか。

【丸委員長】：令和2年の1回目は、臨時休校が始まった頃で、令和3年の1回目は5波6波があり、コロナ感染との関連性を考えなくてはなりません。侵害感では中学生は増加しており、今後も見えていかなくてはならないでしょう。

【鈴木将委員】：未解消事案で気になることがあります。つい手を出してしまう子についてですが、保護者に連絡した時に、保護者が「しつけが足りなくてすみません」との発言がありました。この子が家に帰ってどんなしつけを受けたのかが気になります。「お前がやったことはこういうことなんだ」と叩かれていないか。それはまた別の問題があり気になる点です。理解のある保護者であれば、説いて諭して指導されると思ひます。元気ある子ややんちゃな子がいるのはわかりますが、中には発達特性がある結果でそういう行為をしてしまう子もいます。そのあたりで保護者がどういう様子だったのか。困っていることがあれば関係機関と連携を取ってほしいと思ひます。その線引きが難しいと思ひます。

【丸委員長】：市内の学校でもタブレットを使用する機会が増えていますが、タブレット端末を使ったいじめとか書き込みなどは全国的に多くなっている傾向ですが、現状として市内の小学校はありますか？

【鈴木委員】：市全体での把握はしていませんが、本校ではありません。初期の頃には、中傷ではないですが面白半分で…というのがありましたが、今はなくなりました。

【丸委員長】：高学年になると携帯電話を持つ子が増えていますが、そういう面でのトラブルはどうですか？

【鈴木委員】：昨年と今年と一件もありません。

【丸委員長】：学校では情報モラルの教育はどうですか？

【鈴木委員】：基本的なルールやマナーについて指導はしております。さらに担任とのコミュニケーションをしっかりとるように進めています。

【戸塚委員】：自校のことですが、現中学3年生では「チームス」で勝手にチャットしていた例がありましたが、グループメンバーで楽しく会話していただけで、すぐに発覚して指導後はありません。子どもたちは隙間をぬっていくのが上手ですが、「〇〇さんがこんなの見ていました」とかすぐに連絡が入るので、学校のタブレットを使用しているはずはありません。

本校では生徒会が中心となって、タブレットの使い方を話し合っただけでルールを決めました。そんな中で、授業の課題が出たときには休み時間も使いたいなど授業以外はどう使うか子どもたちが決めて、その通りにやっています。それでも個人のスマホを使っただけでトラブルはあると聞いています。

【金児委員】：携帯でのトラブルについては、子どもからは聞いていません。子どもの携帯では、いろいろな人が入ってこられるようなラインとかのアプリは入れていません。ショートメールとか相手の電話番号が出るのを利用していません。インターネットは「wifi」のないところでは使用できないようにしています。子どもは「〇〇ちゃんもやってるよ」と言ってきますが、「今のところはダメ」と言っています。

学校のタブレットは、5年の子は頻繁に活用しているようです。朝からタブレット開けて、チェックしています。陸上大会がまた延期になった連絡を見て、先生方が何回もグラウンドの整備や準備をしている様子も、担任から入っていて、様子がよくわかります。親としてはどんな会話をしているのか気になります。学校から帰ってくると見せてもらい、いくつかのクラスのグループに先生も入っており、「今の言い方は良くないよ」とか「漢字の間違えがあったよ」などときちんと介入してくれているのでありがたいと感じています。今のところ心配はしておりません。

【川田委員】：我が家では、中学生からスマートフォンを持たせています。子どもはそれを使って友達との会話が多いです。どちらかと言うと、家では学校から支給されているタブレットをあまり使用していない様子です。我が家ではパスワードを知っています。学校に行く時は、携帯を親の見えるところに置いておく約束がありますから学校には持って行っていません。

わが子は変に真面目なところがあって、部活動で大会前など遅くなることあるから、迎えに行かれるかもしれないので「持っていったら…電源を切っておけばいいじゃないか」と言っても「持って行ってはいけませんので持っていかない」と言います。本人がきちんと制御していると考えています。個人的に電話番号の交換やラインの繋がりはありますが、あまり頻繁には使用していないようです。ユーチューブは見ており、タブレットを使って絵を描くとき、「どうしたらうまく描けるのか」など活用できる情報を得ています。今の状況ではひと安心しています。また、「一言でも悪口があったら、解約するよ」と約束しています。

タブレットの活用で、家でやっていることが学校で先生は見ることで



きるのですか？データが残ったり、やり取りができるのですか？

【目出委員】：市内で活用している「チームス」では担任がメンバーに入っているので、見ることができます。そこでは、いけないことに対して指導できます。個人的なものにはつながっていません。

【佐々木】：グループの作り方としては、指導しているので、登録した名前以外で追加されたものなどがあれば学校に連絡して、削除してもらっています。作る時の約束がありますが、約束以外のものはチェックできます。

【川田委員】：そういう状況であれば、学校から支給されているタブレットを使っただけの「荒らしてやれ…」はないのではないかと。

子どもが18歳までは、責任は親にあると考えています。監督責任は親にあり、何かの時には親が出てこなければいけないと思います。中学生になって、「携帯が欲しい」となり、買うことになっても料金とかは基本的には親が支払っているので、子どもが使い方について、駄々をこねても親が指導すべきと考えています。子どもがいろいろやりたいと要求してきたときには、一緒に考え、親としてしっかり相談していくことが大切だと思います。

別な話ですが、お聞きしたいことがあります。トランスジェンダーについてですが、我孫子中で、制服の改定がありました。生徒も一緒に考えながら改定していったようですが、そのような問題は学校に上がってくるのでしょうか。

【丸委員長】：制服等については、校長会でも話が出ていて、7～8年前から話題に上っています。これまでは校則とかは学校職員で決めていくという形だったが、最近では、子どもたちの意見を聞いて、考えさせていくという流れになってきました。

タブレット機器について市で配付していますから、学校で使用ルールを作成して実施しています。スマホについては原則親が買い与えているものですから、親の責任で使用していくことになると思います。

【村田委員】：ある新聞で、「教育委員会にいるいじめ担当は、ほぼ学校関係者で、馴れ合い的なことになってしまう」というような記事がありました。私はその考え方に違和感があります。

今日の報告内容で、「孤立感」についてですが、まずは「マスクを外す」ことがいいのでは…と思っています。また、トランスジェンダーの把握はどのようにしていますか？

【丸委員長】：保護者からの訴えや本人の訴えですね。

村田委員の新聞記事については、「ショック」でした。市としてもこの委員会で報告や意見を伺っているわけで、閉鎖的なのはどこなのかと考えてしまいます。

マスクについては、私も外させたいです。しかし現状としてはもう少し先かと思っています。マスクを外してコロナ感染が増えると様々な苦情ご意見が来ます。対応の一番は、「具合が悪かったら休む」ということを徹底して

いかなくてもいけないと考えています。あとは、「無症状の者」の扱いが難しいと考えています。

【金児委員】：「PTA」についてもいろいろ言われていて、「外部委託とした方がいい」とインターネットでは現状組織が叩かれています。悲しいことだと思います。学校と家庭はコミュニケーションを取らないといけないです。親と学校をつなぐのがPTAで、それを外部組織に委託するのはどうかと思います。PTA活動が面倒だという保護者がいることは確かで、学校にお任せという家庭もあります。PTA活動や先生方と話をしていると様々な情報が得られます。学校と家庭との関係性の良いところを保護者はアピールしてもいいと思います。外部委託は信じられないです。我孫子市の学校と家庭は、こういういい関係を積み重ねているということを見せたいくらいです。

【丸委員長】：4月から学校運営協議会が動き始めましたが、ある保護者は、地域交流とPTAはどうなるのですかという疑問を持っていました。それは別の問題です。子どものために共に活動できたらと考えています。

## 5 連絡 [目出]

最後に、今後の予定について連絡いたします。資料にもありますように第3回いじめ防止対策委員会は令和5年2月14日（火）15時から、本日と同じくこちらの会場で開催予定です。よろしくをお願いします。

## 6 閉会 [目出]

以上をもちまして、令和4年度 第2回我孫子市いじめ防止対策委員会を終わります。ありがとうございました。